２．重要地域情報の再整理結果

今回の再整理の結果、10地域の国土区分ごとに、区域の生物学的特性を示す生態系として計３９６地域が整理された。（表1）

これらは、国土区分の10地域それぞれに典型的に見られる自然植生がまとまって残されている地域であり、各地域の代表的な動植物等を将来にわたって保全していくために中心的な役割を果たす等、日本の多様な生態系を国土全体にわたって保全していく上で注目すべき地域と考えられる。具体的には、北海道の針葉樹林（エゾマツ・トドマツ林等）、東北地方等の夏緑樹林（ブナ林、ミズナラ林）、西日本や中部太平洋側の照葉樹林（スダジイ林、カシ林等）などが把握された。

なお、今回それらの地域の概略的な範囲等の把握も行っている。

【区域の生物学的特性を示す生態系：３９６地域】
［選定の要件］
①区域の特性を示す気候条件によりある程度のまとまりを持って成立している植物群集が見られる地域。
②生物学的特性を示す動物相が存続できるようなまとまりを有する地域。

表１　区域ごとの生物学的特性を示す生態系　再整理結果一覧

生物群集タイプ	区域番号										計
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
北方針葉樹林生物群集	26										26
夏緑樹林生物群集		20									20
北方針広混交林生物群集		5									5
夏緑樹林（太平洋側型）生物群集			53								53
夏緑樹林（日本海側型）生物群集				98	1						99
照葉樹林生物群集					17	61	20	79			177
亜熱帯林生物群集									13		13
亜熱帯林（海洋島型）生物群集										3	3
総　計	26	25	53	98	18	61	20	79	13	3	396

なお、標高や地形などの区域内の環境要因の違いにより特徴づけられる注目すべき生態系についても、再整理を行い、全国で1,195件の地域が整理された。具体的には、高山植生、山地植生（西日本のブナ林等）、海浜植生、マングローブ林等、全国各地から多様な生態系が把握された。

【区域内の環境要因の違いにより特徴づけられる重要な生態系:1,195 地域】
［選定の要件］
以下の例に示す環境要因によりある程度のまとまりを持って成立している植物群集や動物群集が見られる地域
ｱ)垂直、気候条件
ｲ)地形条件（特異な地形等）
ｳ)水条件（湖沼、湿原、河川等）
ｴ)地質、土壌条件（母岩の特性、土壌の物理化学的特性、厚さ等）
ｵ)複合条件（複数の環境要因の複合）

※これらの重要地域情報については、今後も引き続き、地方自治体や全国の研究者の協力を得ながら情報収集・見直しなどの作業を進めることとしている。